

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：第3次産業活動指数(4月)

発表日：6月23日(木)

～4-6月期の伸びの大幅鈍化は避けられる可能性も～

(No. J-48)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 徳永 香奈

(単位：%)

		第3次産業活動指数												
		前期比		前年比		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
03	1-3月	0.7	0.6	0.5	▲0.4	0.0	0.7	▲0.5	0.3	0.3	0.3	1.6	1.2	
	4-6月	0.1	0.8	▲1.2	2.3	▲1.4	0.0	1.3	1.2	▲1.6	0.5	0.2		
	7-9月	0.1	0.1	▲3.2	▲1.7	0.9	▲1.0	2.5	0.2	▲0.1	1.0	0.4		
	10-12月	1.0	1.8	1.9	3.5	0.3	1.2	0.8	▲0.2	1.9	0.6	0.5		
04	1-3月	0.0	2.4	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2		
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0		
	7-9月	▲0.2	2.5	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8		
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5		
05	1-3月	1.4	2.2	4.2	▲2.1	0.2	1.6	1.8	▲0.3	3.0	1.0	2.3		
03	1月	1.4	0.7	0.7	▲0.6	0.3	2.5	0.0	1.2	0.1	1.3	1.0		
	2月	▲0.1	0.9	▲1.1	1.5	▲0.1	▲0.3	0.8	▲0.6	▲0.5	0.4	0.4		
	3月	▲0.2	0.2	2.1	▲2.5	▲0.2	▲0.6	▲1.2	0.4	1.0	▲0.1	0.7		
	4月	0.0	0.3	▲1.1	2.4	▲1.5	0.1	0.5	0.8	▲3.1	▲0.3	▲0.5		
	5月	0.4	0.6	▲1.5	▲1.0	0.5	1.0	0.9	1.1	1.5	1.5	0.3		
	6月	0.1	1.6	▲0.2	5.3	0.0	▲0.6	2.2	▲1.1	0.2	▲0.9	▲0.4		
	7月	▲1.4	▲1.3	▲9.1	▲7.3	0.6	▲1.6	▲0.1	▲0.3	▲1.0	1.2	0.0		
	8月	1.5	▲0.1	7.8	3.5	0.1	1.2	0.4	1.6	▲0.8	▲0.7	0.8		
	9月	0.8	1.7	5.5	1.7	0.1	0.0	1.5	▲0.6	2.6	0.9	0.3		
	10月	0.8	2.5	▲3.8	0.4	1.3	3.0	0.6	▲1.1	▲0.1	0.6	0.0		
	11月	▲1.2	0.5	▲0.6	0.3	▲2.0	▲3.6	▲0.7	1.0	▲0.4	▲0.5	0.2		
	12月	0.0	2.4	0.4	2.1	0.7	0.6	▲1.5	0.3	2.5	0.1	▲0.4		
04	1月	2.0	2.5	2.5	▲4.1	0.8	3.4	3.0	0.2	▲2.5	2.2	2.5		
	2月	▲3.1	2.7	▲1.9	▲0.6	▲3.0	▲3.6	▲3.3	▲2.8	0.2	▲3.6	▲4.0		
	3月	1.6	2.1	1.5	0.2	2.6	▲0.6	4.6	3.1	1.0	4.2	0.6		
	4月	2.0	3.4	▲0.1	2.1	0.2	3.2	1.7	0.4	▲0.2	▲0.6	4.4		
	5月	▲1.0	1.0	1.6	▲1.0	▲0.5	▲2.0	▲1.4	0.2	0.5	0.1	▲0.7		
	6月	0.6	3.0	0.8	5.7	0.6	1.1	▲0.8	0.3	▲0.9	▲0.6	0.1		
	7月	▲0.3	3.4	0.1	▲9.3	1.3	0.9	▲1.7	▲0.2	1.2	0.6	0.4		
	8月	0.2	2.6	▲2.0	4.9	▲1.6	▲1.0	1.1	0.1	▲3.1	1.0	0.2		
	9月	0.0	1.6	1.3	▲0.4	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.1	1.8	▲0.3	1.6		
	10月	0.3	0.5	▲1.4	2.4	0.4	1.2	0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	▲1.1		
	11月	0.3	3.0	▲1.6	▲1.4	0.3	▲0.7	0.8	1.0	▲2.1	0.9	1.9		
	12月	0.1	2.4	▲0.6	2.4	▲0.8	0.0	▲1.0	0.3	5.7	▲0.4	0.7		
05	1月	2.4	3.1	3.6	▲3.1	0.6	4.6	2.9	▲0.3	0.1	1.9	1.9		
	2月	▲1.2	1.5	2.3	1.1	▲1.1	▲2.7	▲1.0	▲0.3	▲0.8	▲2.0	▲0.7		
	3月	▲0.9	2.0	▲0.2	▲2.6	2.3	▲2.9	▲0.2	▲1.2	1.3	1.5	▲0.7		
	4月	1.8	1.8	▲0.7	1.9	1.3	4.3	▲0.2	1.3	▲0.4	▲0.4	1.2		

○ 卸小売業が3ヵ月ぶりの上昇を牽引

4月の第3次産業活動指数は、前月比+1.8%と3ヵ月ぶりの上昇となり、事前コンセンサス(+1.5%、レンジ+0.5%～+2.6%)を若干上回った。1月に前月比+2.4%となった後、2ヵ月連続で低下したことから、先行きが懸念されていたが、そうした不安を和らげる良好な内容であった。この結果、4月の1-3月期比は+0.8%となっており、高い伸びとなった1-3月期に続いての3四半期連続の上昇が視野に入ってきた。

4月の上昇に寄与した主な業種は、卸小売業、対事業所サービス業、情報サービス業等である。特に、卸小売業の全体への寄与度は+1.0%P(前月比+4.3%)と上昇の大部分が説明される。雇用・所得環境の改善を受け、堅調な個人消費が景気を下支えしているという図式がみてとれる。情報通信業(前月比+1.9%)については、3月に通信向け・官公庁向けの受注が一時的に落ち込んだという特殊要因が剥落した反動増という面もあるが、総じてみると、第3次産業活動指数は、緩やかな上昇傾向を続けていると評価できるだろう。

○ 全産業活動指数も堅調

同時に公表された4月の全産業活動指数は、前月比+1.7%と3ヵ月ぶりの上昇となり、事前コンセンサス(+1.4%、レンジ+0.8%~+2.0%)を若干上回った。内訳では、第3次産業活動指数と鉱工業生産指数の上昇が寄与している。全産業指数の底堅さは、堅調な個人消費が景気を下支えしていることを示す一つの材料といえよう。

4月に公表された鉱工業生産指数の予測指数が芳しくなく、4-6月期も前期比マイナスが見込まれるなど、生産の早期回復期待は足元で若干後退している。今後は、鉱工業生産の伸び悩みを第3次産業活動指数がカバーすることで、全産業活動指数を下支えしていくことが見込まれよう。

○ 4-6月期の伸びの大幅鈍化は避けられる可能性も

このように、4月の全産業活動指数は3ヵ月ぶりに上昇し、4月の対1-3月期比も+0.9%となっている。5月には反動減が予想されることもあり、即断はできないが、1-3月期の高い伸びの後で懸念されていた4-6月期の伸びの大幅鈍化は避けられる可能性が出てきた。全産業活動指数は供給側からみたGDPと呼ばれることがあり、GDPと似た動きをすることが知られている。4月の良好な結果によって、1-3月期に続いて4-6月期も上昇するという兆しが見えてきたといえよう。4-6月期の成長率は、踊り場脱出の時期を判断する上で、重要な分かれ目となるだろう。

